

YRS  
ユアーズ



横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより

# 横浜ウェーブ

第180号

## ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2019開催について

7月26日(金)～27日(土)の2日間、当事業団主催の夏の恒例イベント「ヨッテク」(ヨコハマヒューマン&テクノランド)がパシフィコ横浜展示ホールDで開催され、2日間で15,000人を超える方々にご来場いただきました。

私たち聴覚障害者情報提供施設のブース「音や聞こえを快適に」では、例年ご協力いただいている千里福祉情報センター様の聴覚障害関連の機器展示に加え、VR(バーチャルリアリティ)を用いた難聴体験「DeafVR(デフ・ヴィアール)」を実施しました。

「DeafVR」を開発された(株)CNS様にご協力いただき、多くのみなさんに「聞こえない、聞こえにくいとはどんなことなのか」を体験していただきました。

### 「DeafVR」を体験された皆さんの感想

『相手が何を話しているのかわかりませんでした。食卓での家族の、楽しそうな雰囲気はわかって内容がわからず疎外感がありました』

『自分の娘も難聴なので、毎日こんな感じで聞いているのかと思うとショックでした』

『普段、視覚で見ている範囲だけでは周りの様子を把握するには十分な情報量でないことがよくわかりました』

『家族の会話やカフェでは1人だけの空間のように感じました。さみしかったし不安を感じました。手話があると安心ですね』など。

いただいた感想とおして、気付かされることも多く、とても有意義な2日間となりました。

来年は2020年7月24日(金)～25日(土)に開催予定です。みなさん、ぜひご来場ください。



派遣事業

## 令和元年度 第1回

### 横浜市手話通訳者・要約筆記者派遣事業運営委員会を開催しました

7月17日(水)派遣事業運営委員会を開催しました。派遣担当職員による昨年度事業報告と、健康福祉局障害福祉課より区役所設置のタブレット端末を利用した手話通訳利用の昨年度報告の後、各団体から出された議題について意見交換をしました。通訳者の技術向上のための研修や派遣のあり方や、広域派遣についてなどさまざまなご質問ご意見をいただきました。今後も円滑な派遣事業実施のための協議となるよう取り組んでいきます。今年度第2回目となる委員会は、令和2年1月と2月に開催予定です。

**訂正** 179号(6月28日発行)の「全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会・大会が開催されました」の記事について

誤：副理事長に、香川県聴覚障害者福祉センター 太田所長

正：副理事長に、堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センター 井澤所長

訂正してお詫びいたします。

研修事業

## 【実施報告】

# 手話通訳・要約筆記者合同研修

### 6月22日(土)「難聴者がコミュニケーション支援として何を求めているのか」

北陸学院大学人間総合学部社会学科教授の勝谷紀子氏をお招きし、上記テーマで研修を行い95人が出席しました。講師は、心理学を専門とされ、軽・中度難聴者の精神的健康についての研究をされていらっしゃる方です。ご自身の聞こえに関する経験と現在の研究に至るまでの経過と実施したストレス対処のワークショップについてお話をお聞きしました。改めて、聞こえにくさの原因や聞こえの程度は一人ひとり違いがあり、そして、何を困難に感じ、周囲に何を求めているのかも個々に違いがあることを再確認できました。



## 手話通訳者全体研修

### 7月6日(土)「手話通訳を取り巻く現状～医療通訳、ろう通訳者、国家資格化～」



一般社団法人日本手話通訳士協会の川根紀夫氏をお招きし、上記の通り幅広いテーマで研修を行い82人が出席しました。昨年度、「専門分野(医療、高等教育、司法、外国人ろう者)における手話言語通訳者育成カリキュラムを検討するためのニーズ調査研究事業」が行われ、どの分野も求められる力を育てる体制が無いことが課題としてあげられたとのこと。そして、育成の体制づくりが開始されており、その中で通訳者の高齢化や人数不足から、ろう通訳者との協働についての話があることを

知りました。国家資格化は、より専門的な通訳を行い手話通訳者の社会的地位の向上も目指し進めているとのことでした。日々、地域の制度の中で活動しながら、今後も手話通訳に関する課題や全国の動きにも注視が必要と感じた研修でした。

### 8月3日(土)「手話言語学II」

国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科主任教官の市田泰弘氏をお招きし、65人が出席しました。昨年に引き続き、日本手話の言語学的な特徴を、外国語との対比、今年は多くの手話動画を使って明確に講義してくださいました。今回は「発見構文」がメインでした。この構文は日本語にない為、等価に訳すにはいろいろな手法が必要となるが、構文がわかれば、手話に引きずられない・破綻しない読み取りができると。順番にマイクをまわし読みとって



いくことで講義のすべてを実体感できました。表現される手話単語は同じでも、目のふるまい、顎の位置で意味が違って来る、という手話言語のおもしろさを痛感しました。今回のような学習の場を継続してほしいと多くの声があります。今後も通訳者のニーズに応えられるような研修を計画していきます。

## 手話通訳者専門研修

7月8日(月)に「医療通訳の心得と技術ー外国語医療通訳の取組みよりー」と題して、認定NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)より岩元陽子氏をお招きして実施しました。

講義のほか事例に基づくディスカッションを通して、医療通訳者としての姿勢について重なる部分が多く、現場での判断について再確認することができました。また、日本語への翻訳について、ヒントやアドバイスがあり、医療場面における通訳のレベルアップにつながる有意義な研修となりました。

普及・啓発事業

## 【実施報告】

### 横浜菊名薬局で講演しました

7月13日（土）に横浜菊名薬局（港北区）から依頼を受け、「聴覚障害者への対応方法について」をテーマに、1時間講演をしました。薬剤師や窓口担当者など9人の参加がありました。当施設の事業紹介・聴覚障害の基礎知識・具体的対応方法について説明しました。今回は「薬局の窓口でよく使われるコミュニケーション」を中心に聴覚障害者へ対応する際の姿勢と注意ポイントを盛り込みました。

派遣事業

## 【参加報告】

### 令和元年度 意思疎通支援担当者研修会

7月24日（水）～26日（金）の3日間、全国聴覚障害者情報提供施設協議会（以下、「全聴情協」）主催の上記研修会が京都市内で開催され参加しました。当施設を含む全国35施設から47人の担当者が集まりました。1日目は、（株）プラスヴォイス代表取締役社長の三浦宏之氏による「民間企業における電話リレーサービス事業」についての講義のほか、長野県と熊本県から電話リレーサービス実施の現状報告がありました。

2日目は、「情報提供施設のあるべき姿とは」をテーマに、全国手話研修センター常務理事の小出新一氏による「情報提供施設の運営基準」について講義をおこない、その後、グループに分かれて各施設の現状報告や、通訳者不足の課題や、事業運営においてIT技術を活用する部分と人が寄り添う部分のすみわけについて討議をおこないました。

3日目は「個別支援とは」をテーマに、国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科教官の宮澤典子氏による講義を受けました。電話リレーサービスをおこなっている地域（情提）では、情提が閉まっており、民間企業が対応する時間帯に、電話以外の相談が持ち込まれた場合の対応などの課題について学ぶことができました。今回の研修で学んだことを職員間で共有し、今後の業務に活かしていきたいと思っております。



普及・啓発事業

## 浜の会ミニディサービス

7月14日（日）に第4回浜の会ミニディサービス（主催：神奈川ろうヘルパー連絡会かもめの会「浜の会」、横浜市聴覚障害者協会）が港南中央地域ケアプラザ2階多目的ホールで行われ、当施設職員が参加し、付き添いの方も含めて約20人の参加がありました。午前中は血圧と体温の測定、午後は、講師を招いてオリジナル写真立てを作りました。

当施設からは、情提からのお知らせ「ヨツテク」PR動画と、自主制作動画「つつうらうら横浜散歩～アイスクリーム発祥の地～」を視聴いただきました。今後も定期的に参加し、情報提供や、当施設事業の利用につなげていきたいと思っております。



相談事業

## 関東ろうあ者相談員連絡会

7月19日（金）聴覚障害者情報文化センターにて第2回関東ろうあ者相談員連絡会が開催され当施設から2人参加しました。今回は「介護保険について」をテーマに筒井優子氏（きこえとことばの相談室ゆうわ代表）から、介護保険制度をはじめ、実際の活動の様子や現在の問題点を、質疑応答を交えながら説明していただきました。介護保険の改正に伴い生活援助の時間が短縮されるなど、利用者にとって厳しい状況のなかで支援していくために、介護保険法と障害者総合支援法との関連を把握する必要があると感じました。講演後は、第1回連絡会・総会で提案された規約改正や公印作成について話し合いが行われました。次の連絡会は、10月4日（金）埼玉県の特別養護老人ホームななふく苑にて開催されます。





## 「聴覚障害者災害救援横浜市域本部」会議について

8月6日(火)、今年度第2回の標記会議が開催され、9月8日(日)に開催される、令和元年度横浜市総合防災訓練(旭区ズーラシア駐車場)の出展内容や分担等について協議、確認しました。その他、総合防災訓練会場で配布する「防災啓発チラシ」の内容や、市域本部主催の学習会について検討しました。

### 令和元年度横浜市総合防災訓練にご参加ください！！

日 時：令和元年9月8日(日) 10:00~12:00  
 会 場：よこはま動物園ズーラシア北門駐車場(旭区上白根町1176-1)  
 内 容：相模湾沖を震源とするM8.1の大地震発生を想定した実働訓練、防災啓発ブース  
 参加規模：約70機関 約2,000人

★当日は、救出訓練等に手話通訳・要約筆記が付きまます。啓発ブースでは、横浜市の聴覚障害関係団体「聴覚障害者災害救援横浜市域本部」が、ミニ手話講座、筆談体験等をおこないますので、是非お立ち寄りください。



### (7月末までの累計)

■通訳者の派遣・紹介人数

内 容	手話通訳	要約筆記	合 計	昨年同月	相談事業	実件数	対応数
医療・保健	2,029	52	2,081	1,998	医 療	47	80
司 法	21	0	21	17	職 業	11	16
教育・保育	371	29	400	360	教 育	1	1
労働・雇用	242	17	259	294	住 宅	23	37
社会生活	665	51	716	578	生 活	120	162
自己啓発	70	30	100	134	福 祉	69	108
福祉推進	320	389	709	843	法 律	3	9
相談員	0	0	0	1	聞こえ	5	5
他都市	46	4	50	66	合 計	279	418
合 計	3,764	572	4,336	4,291	昨年同月	238	388
昨年同月	3,536	755	4,291				

■聴覚障害者の相談

■通訳者の現任研修

手 話	回 数	参加人数	3 1 7	映像・字幕制作 自主制作作品数	2 1
要約筆記	回 数	1 5	参加人数		

■映像・字幕制作



#### 7月

- 救急救命講習会
- 手話1年次研修(3/6回)
- 要筆新人研修
- 事業団階層別研修
- 川崎情文視察(難聴者相談)
- 手話全体研修(2/5回)
- 浜身連福祉大会
- 手話専門研修
- 健福局定例会
- 防災市域本部会議
- 視聴覚機器点検
- 要筆現任研修
- 事業団階層別研修
- 防災点検

- 啓発事業講師対応(菊名薬局)
- 「浜の会」ミニデイサービス参加
- 手話・要約派遣事業運営委員会
- 派遣システム業者打合せ
- 市議会局打合せ
- 市総合防災訓練説明会(総務局)
- 手話統一試験説明会(京都)
- 衛生委員会
- 手話2年次研(2/5回)
- 主管課定例会
- 遠隔通訳デモ(栄区役所)
- 24~26 全聴情協意思疎通担当者研修(京都)
- 26~27 ヨツテク
- 啓発事業講師対応(富士通)
- 遠隔通訳デモ(金沢区役所)
- 手話養成運営委員会(横聴協)
- 手話課題別研修(3/9回)
- デジタルサイネージ業者打合せ

#### 8月

- 手話全体研修(3/5回)
- 横浜市聴覚障害者のつどい
- 手話1年次研修(4/6回)
- 防災市域本部会議
- 手話小グループ研修(1/3回)
- 要約筆記養成検討会(浜難聴)
- 令和2年度予算ヒアリング
- 遠隔手話通訳研修対応(川崎情文)
- 「つながろう KANAGAWA」研修会協力
- 防災点検
- 手話統一試験委員会(横聴協)
- 全聴情協第三ブロック会議(茨城)
- 「神奈川の手話 DVD」撮影協力
- 手話課題別研修
- 手話養成講師伝達講習会
- 手話3年次研修(1/3回)
- 手話養成運営委員会(横聴協)
- 主管課定例会

### 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより《横浜ウェブ》

発行日：令和元年8月30日  
 発行者：(社福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設  
 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752 TEL. 045-475-2057 FAX. 045-475-2059  
 ホームページ <http://www.yokohama-rf.jp/rapport/jyoutei/>